

強いということ

2024.6.21

クラブチームの練習に行っている。教え子が運営しているクラブである。小学生も中学生もいる。他のクラブチームの選手だったり、学校の部活動でがんばっている選手だったりする。そのため、中体連に登録し、大会に参加したりするようなクラブではない。ソフトテニスが大好きな教え子は、子どもたちに教えたい。子どもたちは、うまくなるために習いたい。両者のニーズが合致したクラブである。

練習でボール出しをしている。小学生のうちから練習をし、大会にも出ている集団である。技術的なものは、ある程度は身に付いている。だが、うまいとか、すばらしいとかというレベルかという、そうでもない。一応、まじめに取り組んではいるが、一生懸命さが感じられるかという、そうでもない。もう少し、真剣さが欲しいと思うくらいである。

ところが、試合形式の練習になると、急に変わるのである。ギアが上がる感じである。これが、試合となると、さらにギアが上がる。練習はいいが、試合になると、うまくいなくなる選手を見ることがある。このクラブの選手たちは違う。練習よりも試合の方がよい。勝ちたいし、負けたくないのだろう。試合に強いと言えばそれまでだが、なぜなのだろうか。

小学生のうちから始めた子どもたちが、みんなこうなるわけではない。娘が小学生と中学生の頃を思い出してみた。練習で身に付けて、試合でそれを出すという感じだった。練習はいいが、試合になるとだめというわけではなかった。だが、試合になると、ギアが上がるということはなかったように思う。練習も試合も変わらなかった。ただし、試合を通してできるようになったことは多かったように思う。

このクラブの選手たちは、試合でできるわけだから、言うことはない。練習のときとは、明らかに打っているボールが違う。ボールの質が違う。やはり、気持ちの問題なのだろうか。試合慣れはしていると思う。だからといって、こうなるのだろうか。

もともと持っているものなのだろうか。そういう子どもたちが、たまたま集まってきているのだろうか。もう少し、分析してみないと、疑問は解けそうもない。強いということは、どういうことなのだろうか。試合で勝てれば強いのか。試合になると、ギアが上がるということが強いということか。一生懸命に練習をして身に付けたことを使って、試合に勝つことができれば、強いのか。あるいは、熱心に練習できることが強いのか。

強いということ突き詰めていくと、わからなくなってくる。このクラブチームの選手たちは、様々なことを考えさせてくれる。あのギアチェンジは魅力である。見ていて楽しいし、おもしろい。子どもたちが、生き生きと試合をしていると、ソフトテニスというスポーツの魅力やおもしろさ、奥の深さを感じることができる。